資料８

シニアカフェについて
（五戸町「まち・カフェ」の報告）

五戸町における「まち・カフェ」の取組を視察したので、報告する。

Ⅰ　まち・カフェの概要

（１）目的

認知症の人を含む町民が気軽に集まる居場所を提供することによって、認知症の人やその家族を支援し介護負担の軽減を図るとともに、認知症があっても地域であたたかく見守られて安心して暮らすことができる環境の構築。

（２）実施の経緯

認知症初期集中支援チームの立ち上げを機に、認知症カフェの一環として開始。

（３）事業開始年度

平成 27 年度（平成 28 年１月から）　※27 年度はトライアルで３回開催。

（４）事業の位置づけ

介護保険法第 115 条の 45 第２項第６号（認知症総合支援事業）における認知症地域支援・ケア向上事業として実施。

（５）実施主体

五戸町福祉課　※地域包括支援センターによる直営

（６）従事者

・地域包括支援センター職員や看護師等の医療職のほか、ボランティアが従事。
・食品販売事業者（移山寮 ※障がい者施設）が軽食等の販売を実施。

（７）実施内容

・飲食、物作りなどの趣味活動、レク活動、体操、会話などを通して、高齢者や関わる地域住民、スタッフ間の交流を図る。
・認知症に関する正しい知識の普及啓発（「まち・カフェ通信」の発行）。
・毎月１回、第２木曜日（１月及び２月はインフルエンザの流行時期であることを考慮して休止）、10 時から 12 時まで定期的に開催。
・実施場所は五戸総合病院待合室の一部を活用。以前は目隠しのためのしきりを設置していたが、現在は撤去している。
・利用料は無料（材料費等の実費は各自負担）。
・認知症の人のほか、障がい者や子どもも利用可能なオープンな場としている。受診の前後に寄

る人や、子どもの診療中に寄る保護者も見られる。毎回 30 人～40 人が利用。

・年度初めに開催日程をちらしで周知。裏面には介護予防教室の開催日程も掲載。

（８）その他

カフェに参加すると１ポイント付与。８～10 ポイント貯まると、手づくりのバッグをプレゼントしている（以前はカードを渡していたが、忘れることが多いため、参加者名簿で管理）。

まち・カフェから派生した住民主体の通いの場を以下に紹介する。

Ⅱ　住民主体の通いの場①（にこにこクラブ）

（１）実施の経緯

五戸町切谷内に毎週火曜日・金曜日に移動販売車が来ているが、買い物客が地面に座っておしゃべりをしていたことから、「何とかできないか」と思いカフェの運営を始めた。

（２）実施主体及び従事者

にこにこクラブ

→代表の館氏のほか、友人だった元保健師や学校の先生、町役場職員 OB、農家等のスタッフ６名で運営（男性１名、女性５名）。

（３）実施内容

・毎月１回、最終火曜日に切谷内公民館で定期的に開催。時間は１回２時間程度。12 月は１週前倒して開催。

・公民館の使用料はかかっていないが、暖房代（灯油代）は負担している。

・カフェへの参加は集落の住民を対象としており、会員は 40 名程度。ほとんどが女性で、少ないときでも 20 名程度参加。

・参加費として 1 人につき 100 円を徴収。お茶やのど飴等のお菓子のほか、誕生日の会員にはプレゼントに充てている。

・活動の目的は介護予防・認知症予防であるが、認知症予防であることがわからないようにゲームやパズルをやって楽しんでもらっている。

・年明けには特殊詐欺被害防止の講習会も開催予定。

（４）その他

・参加者のやりたいことを活動メニューに反映しようと意見を聞いても、参加者から意見が出てこないため毎回メニューを考えるのが大変だが、運営を担うスタッフ（館さんにとっては「パートナー」）の意見も参考に、考えることも楽しんでいるとのこと。

・カフェの参加対象となる住民については、今後も集落の住民に限りたいとのこと。

・また、現在月 1 回の開催としているが、開催回数を増やすと運営の負担が増すことから、増やす予定はなし（冬場に限り月 2 回の開催を参加者に提案したが、希望者なし）。

Ⅲ　住民主体の通いの場②

（１）開始の経緯

五戸町地域包括支援センターがまち・カフェを開始後、地区に 1 つカフェがあることが理想であるとの呼びかけがあり、自治会に相談したところ協力が得られることになったことから、平成 29 年２月から開始。

（２）実施主体及び従事者

主催は下大町自治会で、運営メンバーは江渡氏が知人の保健推進員や食生活改善推進員、婦人会役人に個別に声がけして集めた。

（３）実施内容

・昨年度までは自治会からの助成を運営経費（お茶代として年間６千円）として、無理しない程度に隔月で開催していたが、今年度からは町の助成金を活用し、毎月１回、第２水曜日に町立公民館のロビーで開催。
・教材費及びお茶代を補助金と自治会からの助成でまかなっており、参加者の自己負担はなし。
・カフェの参加者はスタッフ込みで平均 15～16 人程度。最高齢で 90 歳の人もいる。
・公民館で活動しているコーラスのクラブとコラボする活動も生まれている。
・活動メニューは五戸総合病院で行われているまち・カフェの内容がベースとなっており、絵を書いたり、雑誌に掲載されている間違い探しをしたりしている。機材が必要な場合は町から借りている。
・12 月には栄養士を招いた講習会も開催予定。食事を食べながら行うことを予定しており、材料費として 100 円徴収することも検討中。

（４）その他

・カフェ開催のお知らせは自治会の回覧板で周知している。
・カフェの運営については介護予防のほか、見守りということも意識している。
・カフェを始めてから地域の情報がよく入ってくるようになった。カフェに来ているうちに、明るくなった人もいる。
・男性の参加者が少ないのが課題であるが、会場の設営や片づけといった何かしらの役割を担ってもらうと来てもらえるようになるのではないかと考えている。
・地域でカフェを運営する際には、モデルとなる取組があるとよい。五戸町においては包括のカフェがその役割を担っているが、荒町では民生委員が下大町の取組を見てカフェを始めている。
・カフェが町内各地区で運営されるようになり、電球の交換やごみ捨て支援といった生活支援サービスを実施できるようになればよいと考えているとのこと。
・下大町では、町立公民館を会場としたカフェのほか、カフェを畑で開催するなど、複数のカフェを運営してはどうかという意見も出てきているとのこと。

Ⅳ　まとめ

（１）五戸町のカフェの目的

五戸町では介護予防、余暇の活用、見守りなどの多様な目的があるが、活動を継続する中で意味が生じてきた側面がある（実践が先行）。

（２）活動の広め方

まち・カフェが波及し、住民主体の活動が生み出されている。カフェの実践者から「モデルとなる取組があると良い」との意見が挙がっている。また、地域のキーパーソンが存在するか否かも重要な要素であると思われる。

【ポイント】五戸町のようにモデルとなる取組を先行させるか否か。

【ポイント】地域のキーパーソンをいかにして見つけるか。（どう広めていくか）

（３）運営の担い手

モデルとなる「まち・カフェ」は官製であるが、派生した活動は全て住民主体である。

【ポイント】活動の担い手や企画イメージの検討。

（４）対象者

住民主体の活動については、年齢は 65 歳以上で一定の居住地に限っている。

【ポイント】対象者を明示するべきか、ある程度の余裕を持たせるべきか。

（５）参加費のあり方

まち・カフェは無料だが、住民主体の活動ではお茶代やお菓子代として、１回 100 円程度を徴収することもある。なお、地域交流スペースそよ風利用者への調査でも、過半数が一定の費用負担を肯定していることを付言する。

【ポイント】妥当な費用負担とは。

（６）実施内容

飲食、物作りなどの趣味活動、レク活動、体操、会話などを実施している。利用者からの要望があまり出ないこともあるため、企画を担う人材が重要である。

【ポイント】人材の確保。